

福島県原子力発電所の廃炉に関する安全確保県民会議
 における追加質問及び会議中議論への回答

1 追加質問への回答

質 問	回 答
<p>先日、新聞に福島の高校生が原発を視察したという記事を見ました。</p> <p>行ったことの是非は別として、今回高校生はどのような思いで、現場を見て、どのような話（質問）をしたのか。</p> <p>また、どのように東京電力が回答したのか教えてほしい。</p>	<p>【東京電力ホールディングス株式会社】</p> <p>今回ご見学いただいた福島高校は、文科省指定のスーパーサイエンスハイスクールで、理系人材育成に力を入れる県立高校です。生徒さんたちは、事故直後から放射線についての学びを続け、自ら、原発事故による放射線影響、風評被害などを調査していましたが、そうした活動を通じて、福島県民として廃炉の現状を説明できるようにしたいとの強い思いから見学の希望があり実現したものです。</p> <p>生徒さんからは、発電所の敷地や原子炉建屋・汚染水タンク群の巨大さや、建屋周りの高線量エリアがある一方で、一般作業服で働く線量の低いエリアがあることへの驚きの声がありました。また質問では、廃炉作業状況、見通しや費用、課題・問題点、それに関わる人材像、東京電力が進める復興活動など多岐にわたりましたが、ひとつ一つ、ありのままを回答しています。</p> <p>また「今までは他人事として見ていたけれど、こうして実際に来てみると、まだまだ課題はある」「自分の言葉で自分が感じたことをいろいろな人に伝えて、廃炉というマイナスイメージだけではなく、廃炉・復興を進めて、福島をよりよい場所にしていこうというプラスなイメージにしたい」など前向きな感想もいただきました。</p> <p>廃炉作業は30～40年という長きに渡る作業であることから、当社としては次世代を担う若い世代の方に、現場をご覧いただくことは、大変有難いことだと思っています。</p>

質 問	回 答
<p>凍土壁は本当に大丈夫なのでしょうか。とても不安です。</p> <p>はっきりとした回答をいただきたい。</p>	<p>【東京電力ホールディングス株式会社】</p> <p>2016年3月から陸側遮水壁の凍結を開始し、その後、順次凍結範囲の拡大を進めてまいりました。8月22日に、最後まで残っていた山側の未凍結箇所1か所について凍結を開始しました。</p> <p>これまでに、未凍結箇所1か所を除き、地中温度は、陸側遮水壁のほぼ全域で0℃以下を維持しております。また、陸側遮水壁の遮水効果により内外の地下水の水位差は拡大しており、山側から陸側遮水壁内側への地下水流入量は減少しております。サブドレンによる地下水くみ上げによる効果と併せて、建屋への地下水流入量も減少しています。</p> <p>最後の未凍結箇所1か所の凍結を開始することにより、山側からの地下水流入量をさらに減少させ、サブドレンによる汲み上げ効果と併せて建屋周辺の地下水位を安定的にコントロールできるようにし、汚染水の発生を抑制することができると考えています。</p>

2 会議中議論への回答

質 問	回 答
<p>1号機原子炉建屋オペレーティングフロア上のガレキ撤去作業における放射性物質の飛散防止対策に関連して、①作業を停止する風速の基準及び②防風シート取付にあたり想定した風速について説明すること。</p>	<p>【東京電力ホールディングス株式会社】</p> <p>1号機原子炉建屋オペレーティングフロア上のダスト飛散防止対策に関する説明を資料-1に追加しました。</p> <p>① 瓦礫撤去作業は、クレーンを使用する作業となるため、「作業を停止する風速」は、10m/sとなります。</p> <p>② 「防風シート取付にあたり想定した風速」は30m/sとなります。</p>